

いたちかわらばん

鮎川・狹川・川原番・瓦版 秋号



版画 宗森英夫

《上耕地橋》画面左上の坂を登ると公田団地

手づくり 紙しばい

『いたちばし』
『大山の雨乞い』
『長倉の池ものがたり』

横浜市栄図書館開館10周年記念として、栄区に残る民話を題材にした手づくり紙芝居ができあがりました。

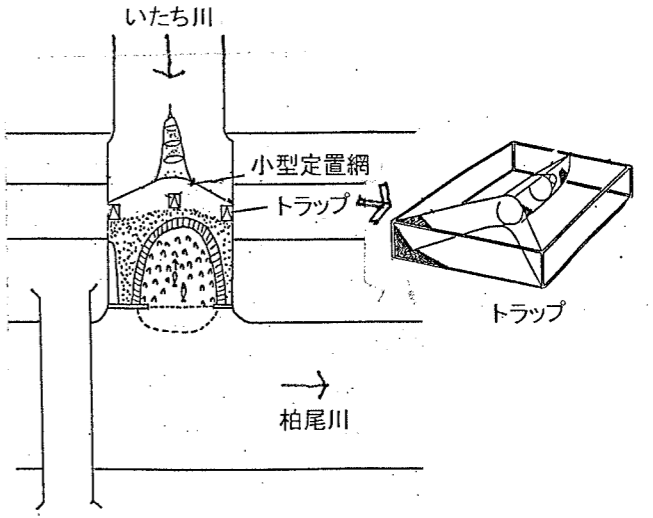
『いたちばし』
いたち川の橋の中でも可愛いと評判の大きい橋・小さい橋、このふたつの橋をテーマに“いたちかわらばん”昨年夏号のオリジナル昔話をもとに、12枚の紙しばいにしました。作ったのは栄区に住む6校の小学生三十数名の“子供アトリエ”の子供達です。自分達と、いたち川との思いを生き生きと子供らしい感覚で描いた作品です。

『大山の雨乞い』
ある年、一滴も雨が降らないので、金沢村の人が大山へ雨乞いに行った帰り道、上之村にさしかかると…という昔話を、“いたちかわらばん”表紙の版画でおなじみの宗森英夫さんの版画12枚で構成しています。版画独特の白・黒・灰色の美しさあふれる作品です。

『長倉の池ものがたり』
“いたちかわらばん”創刊号を飾った昇龍橋をテーマに創作しました。「ほしのこひろば」や幼稚園、小学校などで手づくり紙芝居を上演している大泉ひろ子さんの色鮮やかな、やさしい絵と文、子供と蛇の心あたたまる可愛い作品です。

いたち川魚介類調査

1. 調査目的
落差のあった柏尾川・いたち川合流点にスロープ型の魚道が平成9年6月に完成しました。その後、魚道の上流・下流で魚介類の採捕調査を実施し、魚介類の遡上の実態を調べてきました。
2. 調査時期、調査方法
平成10年から、秋、冬、春、夏の年四回、それぞれ6時間毎に計三日間、合計12回、定置網とトラップ型網で捕獲しました。
秋、春の調査には、柏尾川の合流点の上・下流200mといたち川花の木橋までで、投網とタモ網による採集を行いました。
3. 調査結果の概要
四季による捕獲魚介類の変化と、時間帯による魚介類の活動の違いなどが解りました。
捕獲した魚介類で数の多いものは、コイ、フナ、オイカワ、モツゴ、ヨシノボリ、アブラハヤ、ドジョウ、テナガエビ、アメリカザリガニ、モクズガニなどでした。(水人子)



新隊員紹介

3月に大阪から越してきました。
いたち川が気に入って、ここに住むことにしました。
(かめ)

お披露目公演

12月12日(日)

13時30分開場、14時開演
場所 栄公会堂ホール

原画展 同時開催
入場無料
どなたでも入れます

問い合わせ先 栄図書館 電話 045-891-2801

天神様は鶏きりこ

昔、昔。今の公田交差点の南、上耕地橋の北に天神様の社があった。桂村や馬場根(ばばね)(番馬根・ばんばね)の人々が氏子になっていた。この馬場根に住む人々の間には、昔から「鶏を飼わない」という申し合わせがあり、ごく最近まで鶏を飼う家はなかったという。それは、天神様と深い関わりがあったことだった。

天神様は、平安時代に実在した菅原道真(すがらみちざね)を祀る学問の神であるが、たたりのある恐ろしい一面も持ち合わせている。道真は、実権を握っていた藤原氏の政治に反対したため、九州の太宰府(たさいふ)に流されることになる。その朝、一番鶏の声を合図に屋敷を抜け出し、逃げるという手はずだった。ところがなんとその朝に限って、鶏は鳴かなかった。道真は太宰府に流され、鶏を憎み、藤原氏を恨んで命果てたという。

その後、京の都では熱病が流行し、藤原一族は次々と怪死した。そして、鶏を飼う家には雷が落ち、火事になる騒ぎが相次いだのである。道真のたたりには違いないと、人々はその魂を鎮めるため京都や筑紫(つくし)の国に天満宮(天神様)を建てたという。やがて天神様は全国に建てられていく。

桂の天神様は、明治初期の「廃仏毀釈(はいぶつきしゃく)」により、公田の神明社へ合併された。天神様に天神様がなくなり、馬場根で鶏を飼わないという風習も、やがてなくなっていた。そして、今の天神橋は本当は天神橋ではなく、上耕地橋が本当の天神橋なのである。(すみれ)

本郷郷土史研究会編集「本郷の民話と伝説」より



この部分を切り取ってファイルすると便利です。

発行年月 1999年10月 (通刊7号)

発行：狹川OTASUKE隊(いたちがわおたすけたい)
OTASUKE隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8331 FAX 045-895-2260
栄土木事務所下水道係 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
(お便り・お問い合わせはこちらまで)

いたち川の橋と言い伝え (Part 1)

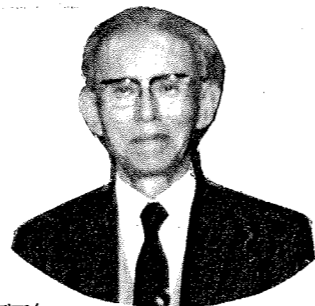
下記のお二人からのお話をOTASUKE隊メンバーがまとめました。

長瀬榮雄氏

白井喜代士氏

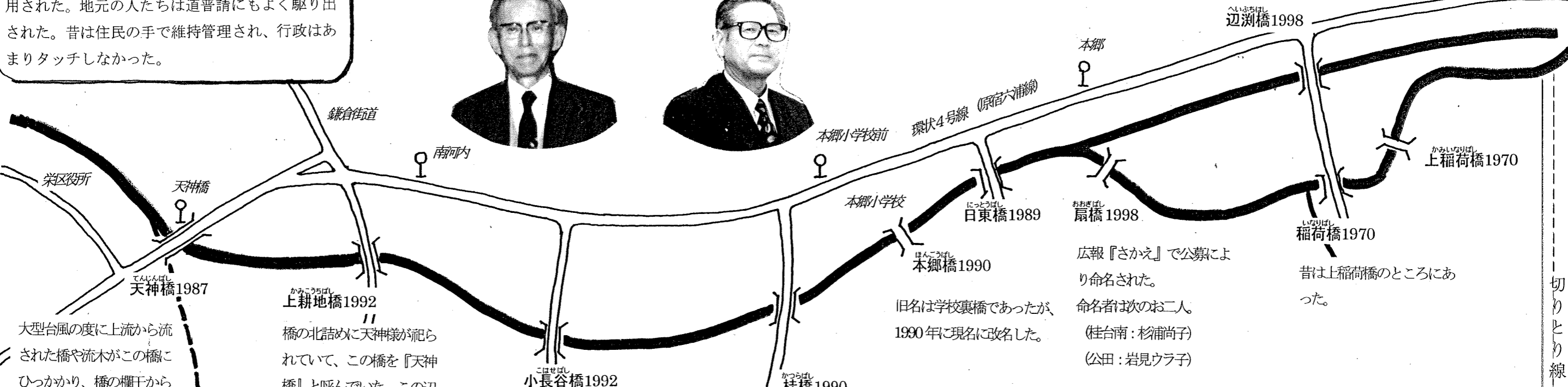
(本郷郷土史研究会・元地名部会長)

(栄区商店街連合会会長)

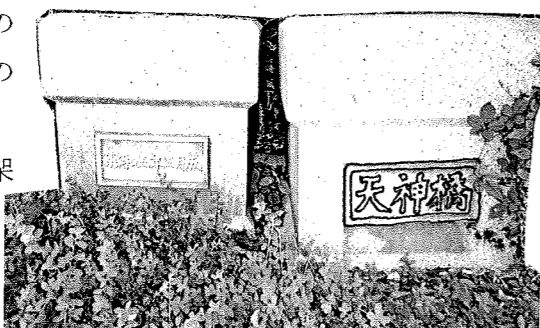


橋の維持
地係(ぢがかり)という所有している田畑の面積に比例した賦役があり、三年に一回の割で架け替えられた。篠竹で編んだ当地特産のパイスケも活用された。地元の人たちは道普請にもよく駆り出された。昔は住民の手で維持管理され、行政はあまりタッチしなかった。

昔、証菩提寺の敷地がこのあたりまであり、塀の縁にあったことからこの名がついたとか。



大型台風の度に上流から流された橋や流木がこの橋にひっかかり、橋の欄干からロープで引き上げた。明治時代に鎌倉街道が整備されたときに木橋が架けられ、昭和5年に石橋に架け替えられた。この時の橋の高欄が現在、栄区役所前の広場の片隅に置いてある。現在の橋は昭和60年に架け替えた。



上耕地橋1992
橋の北詰めに天神様が祀られていて、この橋を『天神橋』と呼んでいた。この辺りは上耕地という地名だったので、今の橋名になった。

小長谷橋1992
この奥に二つの谷戸、小谷戸と長谷戸があり、その字名に因んで昭和初期に長谷川藤吉郎氏が命名したという。それ以前は『上皇寺橋』と呼ばれていた。

桂橋1990
洪水の度に流されるので、船底の板を針金でつないだ浮き橋であったため『船底橋』と呼ばれていた。

本郷橋1990
旧名は学校裏橋であったが、1990年に現名に改名した。

扇橋1998
広報『さかえ』で公募により命名された。命名者は次のお二人。(桂台南: 杉浦尚子) (公田: 岩見ウラ子)

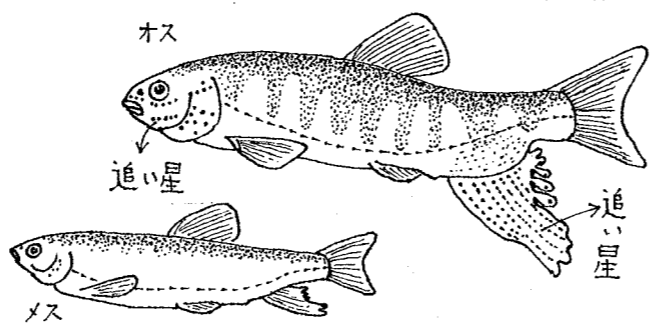
稲荷橋1970
昔は上稲荷橋のところにあった。



茶別当 (字名: 現在の桂台) の大蛇
昭和23年頃、力持ちで働き者の清左衛門さん(明治30年代生まれ)がザルを作るため山へ篠竹を取りに行き、その帰り道、切ってきた竹から異様な匂いが…。見ると太もも位の蛇が出てきた。清左衛門さんはあわてて逃げたが、そのまま寝込んでしまい、二度と再び山には入らなかった。その後しばらくは山に近づくものは誰ひとりいなかった。

※橋名の後の数字は、現在架かる橋が竣工した年。取材担当 いもり、神戸橋・川守、すみれ、のうさぎ、水人子

オスは産まれて二年で成熟し、一二次性徴は顕著で、とくに尻ししが伸びて大きくなり、産卵期には口先や顔面、尻ししや腹面などに白く堅い追い星(これでメスを追うときにつつく。)が多数現れ、体側が青く光り、腹側が赤くなって一ツ色(美しく輝く)になります。メスは白っぽく、産卵期にも腹側がほんのり赤みを帯びるにすぎません。産卵は五月から八月に及び、流れの緩やかな水深五センチメートル程度の浅瀬で、まずオスが産卵場所を選定して直径四、五十センチメートルのナワバリを作り、入りこむ他のオスを闘争して追い払います。そしてメスを呼びこんでペアをつくり、胸ししと腹ししを広げてメスの上に重なり、砂利の底にメスの体を押しつけるように体を横たえ、体を激しく震動させて放卵放精します。このような産卵行為は、一回もくり返され、風間さんに行かれますが、卵は産みっぱなしで保護はしません。(SPC)



いたち川の神戸橋から下流の日当たりのよい場所です。深みのあるところに住んでいます。夜間に群をなして浅瀬のほり、風間は浅く泳ぎ回ります。オスは体長十五センチメートル内外ありますが、メスは小さく十センチメートルとまじりです。雌雄の大きさ、体形、色彩が著しく違つたため、別種と誤っている人も多いようです。

いたち川周辺の生き物⑥ 夏に産卵がきれいになるオイカワ

ほくは、アメリカのカリフォルニア州に住んでいます。去年の夏に日本に帰ってきたとき、初めていたち川の『いかだ祭り』に連れていってもらいました。今年もまた連れていってもらえたので、ほくはとてもうれしかったです。アメリカにもお祭りはありますが、『いかだ祭り』はありません。日本のお祭りは金魚すくいやボールすくいがあって、なんだかとてもなつかしい気持ちになります。『いかだ祭り』にはほくの日本の友達が行って思いっきり遊びました。夏の暑い日にいたち川の水につかって泳いだり魚をつかまえたり、石投げをしたのりして遊ぶと汗がたらたらと流れてきますが、すごくおもしろいです。いかだに乗りながら、ほくは「すっぴーこ日本にいたい」気分になっていました。あさってほくはまたアメリカに帰ります。今年の夏休みもとても楽しく過ごしました。ほくは、忘れられないようなたくさん思い出をつくりました。ほくの周りの人たちが、ほくのためにいろいろのことをしてくれて、とても感謝しています。来年もまた、『いかだ祭り』にいけたらいいなあと思います。(アメリカ在住 小学校五年 大庭瑠維) ※いかだ祭り: いたち川と親しむ会が主催するイベントで、毎年栄区役所裏の大いたち・小いたち橋付近で行われます。今年(平成二十一年)八月二十日(日)に実施されました。(今年で第八回目)